

第50回評価監視委員会の開催について

第50回 一般財団法人建設物価調査会評価監視委員会が開催されましたので、議事概要についてお知らせいたします。

開催日時	平成28年10月17日(月)15:00～17:00	
開催場所	一般財団法人建設物価調査会 会議室	
出席委員 (五十音順)	木下 誠也(日本大学生産工学部土木工学科 教授) 佐藤 淳(公認会計士) 佐野 洋(元 会計検査院 事務総長官房審議官) 白戸 智(株三菱総合研究所 政策・経済研究センター 主席研究員) 寺川 祐一(委員長(医療用医薬品製造販売業公正取引協議会専務理事))	
	四国支部 高梨 卓司、立石 久順 共通資材調査部 大谷 忠広、馬場 秀彦、南 昌宏 第二土木調査部 池原 一彦、小林 法雅、佐高 俊彦 調査統括部 鈴木 昌樹、後藤 裕 監査審査室 渡部 利也、葦浦 正己	
審議案件	案 件	備 考
	(定期調査) レディーミクストコンクリート 高松価格	「建設物価」平成28年10月号104～105頁掲載価格について、調査結果記録票、調査結果集計表等に基づき、調査方法、調査プロセス等を説明。
	(受託調査) 無停電電源装置 埼玉県さいたま市	受託調査について、調査票、調査報告書等に基づき、調査方法、調査プロセス等を説明。
委員からの主な意見・ 質問、それに対する調 査会からの回答等	別紙のとおり	
委員会による指摘(不適 切な点又は改善すべき 点)	なし	

意見・質問	説明・回答
<p>1. 定期調査について レディーミクストコンクリート (高松価格)</p> <p>○ 東部協組定価表とはどのような性格のものか。</p> <p>○ これは協組が公にしている価格ということか。</p> <p>○ ベース規格の価格が、㎡当たり12,000円に変わり、今回調査して得られた最頻値が同11,500円になったのはなぜか。</p> <p>○ 員外社であるA社が、員外利用協定を結んで事実上協組と共同歩調を取っているはずが、調査価格が違っているのはなぜか。</p> <p>○ 協定を結んだ限りは、今後はA社の販売価格も協組の販売価格と同じ価格になるということか。</p> <p>○ 生コンの価格は、地域によって大きく異なるが、その要因はなにか。</p> <p>○ 員外社のいない地域もあるのか。</p> <p>○ 今回の高松地区の生コン価格のように3割以上も上がってしまう例は、一般的にありえることか。</p> <p>○ 取引先のゼネコンや建設業者からリベートを受け取っている可能性はないか。</p>	<p>○ 高松地区では、香川県東部生コンクリート協同組合（以下、協組という）の定価表が取引価格のベースになっている。</p> <p>○ 需要家向けに、公表している価格表である。</p> <p>○ 協組は、㎡当たり12,000円の値上げを打ち出して需要家との交渉に当たり、最終的に打ち出し価格から同500円値引きし、同11,500円となった。</p> <p>○ 全量を協組が買い取って販売するのが基本だが、員外利用協定の締結以前から交渉しているものについての値上げが遅れているため、協組の共同販売価格と異なっている。</p> <p>○ 新規物件は協定に基づいて販売されることになるため、今後、協組の販売価格と同じ価格になる可能性は高い。</p> <p>○ 要因としては、原材料の動向、需給バランスもあるが、加えて協組の組織力の強さや協組に加入していない員外社との価格競争などがある。</p> <p>○ 完全共販と呼んでいるが、エリア内すべてのメーカーで共同販売されている地域はある。</p> <p>○ 数千円の値上がりというのは頻繁にあるわけではないが、全国の中では過去にも事例はある。</p> <p>○ リベートが無いことを調査の中で確認している。</p>

意見・質問	説明・回答
<p>2. 受託調査について 無停電電源装置 (埼玉県さいたま市)</p> <p>○ 今回、見積りを回収できたのは3社か。</p> <p>○ 各社の調査票定価には差があるのか。</p> <p>○ 今回の資材は、一品一品の注文生産になるのか。</p> <p>○ 受注社の割合について、統計を取り始めてからここ12年間で受注先の傾向が変わったということはないか。</p> <p>○ 工事自体はメーカーでも十分対応できる内容なのか。</p> <p>○ 施工会社の受注が増えてきているのは、請け負い易い環境があるということか。</p> <p>○ こうした価格調査を行った後の発注までのプロセスはどうなるのか。</p> <p>○ 受注した業者から調査を行うと、高めに見積価格を入れておこうという心理が働いた価格になることはないか。</p> <p>○ 10社近くも調査票を送っても、結局回答してくれるのは一部に限られるというのはよくある話か。</p> <p>○ 仕様書が限定されていると通常、受注しているところでないとは対応できないということか。</p>	<p>○ いいえ、見積りを回収できたのは4社である。</p> <p>○ 特注品のため、各社の見積りの考え方によって差が表われている。</p> <p>○ 基本はそうなる。ベースとなる製品は各社とも持っているが、それをベースにして各物件毎の回路に応じて特注製造している。</p> <p>○ 直近では、施工会社の受注割合が高まっている傾向が見られる。</p> <p>○ 施工部隊を持っているメーカーなら可能である。</p> <p>○ メーカー側の考え方にもよるが、機器販売だけで利益を得るか、元請として工事を受注して利益を上げるかを判断したうえで、昨今では機器販売に徹しているメーカーが多い。</p> <p>○ 基本的には、詳細設計の前に調査依頼があり、当会の報告した価格を基に予定価格が組まれて発注に移ることになる。</p> <p>○ そういう可能性はあるので、過去の調査結果と比べて異常に高くなっていないか、あるいは独自の試算額とかい離がないかなどの一定の基準を持って判断している。</p> <p>○ どちらかと言うと、このような機器類調査においてはよくある話である。今回に関しては仕様書の内容がいろんなメーカーが対応できるものではなかったようである。</p> <p>○ そうなることもある。極端な事例だと、10社に依頼しても1社しか回答がないというケースもありえる。</p>
<p>3. 次回開催日について</p> <p>○ 次回評価監視委員会は、平成29年2月中旬～下旬に開催予定。</p>	